様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００４３５

研究課題名（和文）太平洋横断的ヴェトナム系アメリカ文化研究の構築にむけてー難民文化の再越境と変容

研究課題名（英文）Toward the Construction of the Transpacific Vietnamese American Studies

研究代表者
麻生　享志（ASO, Takashi）

早稲田大学・国際学術院・教授

研究者番号：８０２８６４３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、環太平洋地域におけるヴェトナム系アメリカ人芸術家の活動に焦点をあて、彼らが創る太平洋横断的な複合文化の論理と倫理を問うことであった。この地域でのヴェトナム系芸術家台頭の背景には、1) 戦争終結から 40 年余りを経て脱越者とヴェトナム社会主義政府のイデオロギー対立が緩和され、帰越する芸術家が増えていること; 2) タイ、日本、豪州等を拠点に、汎アジア的な文化形成に寄与する芸術家が増えている点が指摘される。本研究では、アメリカでの現地調査、文献等資料による研究調査を中心に、ヴェトナム系アメリカ文化の現状を、小説等文学作品、映像芸術、身体的パフォーマンス等を例に幅広く分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究で取り上げる太平洋横断的な文化形成は、ヴェトナム系アメリカ人芸術家だけではなく、環太平洋地域で活動する多くのアジア系芸術家によって、さらにはグローバルに活躍する各国の芸術家によって共有される脱領域的な文化・芸術現象のひとつである。また、ヴェトナム戦争を起因に生まれた難民コミュニティと、そこにおける文化・芸術の生成を対象とする本研究は、中近東・東ヨーロッパを中心に政治・経済的理由から難民が増加する現在、グローバル化時代の文化研究の実践例として、今後起きうる事象を予見するものである。よって、本研究がもつ文化・社会的意義は大きく、関連分野への波及効果も期待される。

研究成果の概要（英文）：In this research, my purpose was to focus on the transpacific Vietnamese American movement in the field of art and literature in order to clarify the ethics of what is known as hybrid culture. In particular, I focused on the culture of Vietnamese refugee artists and writers living in the United States. Their works represent both differences and similarities between American culture and that of Vietnam, thereby embodying diverse ideas born out of the collisions and negotiations of the two different cultures. These artists and writers articulate positive values of the transpacific reformation of traditional cultures. In this research, I analyzed their narratives, cultural memories of the war, histories of the transpacific migration. As a result of the study, I published books and articles, among which is inclulded "Little Saigon," the first comprehensive book in Japan on the topic of the formation and development of Vietnamese American culture at the turn of the twentieth-first century.

研究分野：現代アメリカ文化・文学

キーワード：ヴェトナム戦争　ヴェトナム系難民　アジア系アメリカ　アメリカ大衆文化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

（1）1960 年代以降、人文学においては文化の多様性や複合性に強い関心が寄せられ、その相対的価値をいかに評価すべきかを問う研究が多くなされてきた。ポストモダニズム研究、多文化主義研究、ポスト植民地主義研究等の旗印の下、それら諸問題が活発に議論された。現在では、翻訳の文化的価値や文化の複合性を論じるトランスレーション・スタディーズや、ヴェトナム系研究者が主導する批判的難民学等が同様の問題に取り組む。これらの研究は文化相対主義的な世界の構築を指向し、アメリカ文化・社会全体の展開にも影響を与えてきた。

（2）一方、戦後ヴェトナムの状況に目を向ければ、南北統一を果たしたヴェトナム社会主義共和国政府と政治弾圧を受けた旧南ヴェトナム市民の対立は、1980 年代を通じて深まった。アメリカでは脱越者がヴェトナム系コミュニティ（リトルサイゴン）を各地に創設し、失われた祖国への郷愁の念だけではなく、強い反共産主義思想を共有した。祖国奪還を目指し旧南ヴェトナム再建を目論む保守反動的な勢力も現れるなか、人文学研究において展開された理論的理想は、ヴェトナム系コミュニティでは実践されるにはほど遠い状況が続いた。

（3）この状況が変化し、ヴェトナム系コミュニティが新たな方向を目指すきっかけとなったのが、1995 年の米越国交正常化である。経済不振にあえぐ統一ヴェトナムが、外貨獲得と在外ヴェトナム人の知見を求め、脱越者の帰越を歓迎したこともあり、国交正常化以降は多くのヴェトナム系アメリカ人が旅行者として、あるいは旧祖国にて経済的成功を求める起業家として帰越した。その結果、社会主義政権への猜疑心を残しつつも、ヴェトナム系コミュニティはイデオロギー対立を超えた両者共存の道を模索し始めた。この過程において、アメリカ国内だけではなくタイ、マレーシア、日本、香港、豪州といった環太平洋地域で活動するヴェトナム系芸術家や、帰越して活動する芸術家が、新たなヴェトナム表象を提案した。ここに太平洋横断的ヴェトナム系文化の形成が始まった。

２．研究の目的

（1）本研究では、帰越芸術家やアジア地域においてヴェトナム系アメリカ人芸術家が中心となって構築する太平洋横断的複合文化に焦点を当て、この新しい文化がいかなる意識を持って形成され、どのような意味や価値を持ち、人々によって共有されるのかを分析・考察した。問われるべきは、米越国交正常化を経て国際社会に復帰したヴェトナムと、ヴェトナム戦争後もアジアで軍事・経済的覇権を求めるアメリカとの間に挟まれたヴェトナム系難民の文化・社会的立ち位置であり、彼らが創出する文化・芸術のあり方（論理）とその倫理的意味や価値である。また、地域文化の個性や特徴が画一的に書き換えられるグローバル化時代において、芸術家が自らの地域・民族的アイデンティティーをいかに意識し、それを作品に表現しうるのかも、本研究が問う課題に含めた。

３．研究の方法

（1）研究実施にあたっては、本研究代表者がアメリカ合衆国でフィールドワーク（文献調査を含む）を実施し、対象となる芸術家や研究者に本研究への理解・協力・参加を求めた（30、31/01 年度）。また、本研究代表者の勤務校を拠点にヴェトナム系アメリカ人芸術家を招聘し、大学・学会での講演・ワークショップ等を企画・実施した（31/01 年度）。しかしながら、01 年度後半以降は世界的なコロナ感染症の流行が原因で、厳しい渡航・行動制限が課されたことから、オンラインによる海外研究者との意見交換や学会参加、国内から入手・閲覧可能な文献研究を主とすることになった。

４．研究成果

（1）<30 年度> 1)カリフォルニア州立大学アーバイン校ラングソン・ライブラリー内にある特別資料室、ゲートウェイ・スタディー・センター内にある東南アジア資料室において、ヴェトナム戦争後の難民に関する資料等の調査・研究を行った。その対象は絶版書籍、1980-90 年代発行の日刊紙、コミュニティ・ペーパー、学生団体による発行物やイベント関連のチラシ・プログラム等現在では入手困難、もしくは市場には流通していないものである。主たる調査資料は、以下の通り：i) Vietnamese American Art and Letters Association Collection, 2002-2005；ii) Vietnamese Student Association at the University of California, Irvine Records, 1979-2009；iii) Guide to the Government of Free Vietnam Publicity and Organizational Materials。2)ヴェトナム系アメリカ人 1.5 世代マルチメディア芸術家としてアメリカ西海岸、東南アジア諸国で活躍し、California College of the Arts で教鞭を執る Viet Le の、早稲田大学での講演・ワークショップ開催を依頼、承諾された。

（2）<31/01 年度> 31/01 年度の研究は単著『「リトルサイゴン」』の執筆を念頭に、海外から講師の招聘を行うとともに、アメリカ合衆国での現地調査・資料収集等を実施した。また、日本英文学会関東支部、日本アメリカ文学会において、招待講演を行った。詳細は以下の通り。1)[招聘講師] 2019 年 7 月 Viet Le (California College of Arts)を招聘し、早稲田大学てにおいて授業、ワークショップ、公開講演（アジア系アメリカ文学研究会との共催）を実施した。2)[出張] 2019 年 8 月

アメリカ合衆国にて現地調査・資料収集等を実施。前出 Viet Le (California College of Arts)、ヴェトナム系アメリカ人研究者 Long T. Bui (University of California, Irvine) との意見・情報交換、Orange County Museum of Art 視察("Uudam Tran Nguyen: TIME BOOMERANG California Edition of S.E.A. Sea Atolls to the Next Dead Stars")、Black Umbrella Tattoo and Art Gallery 視察(Vietnamese American Association of Literature and Art, "Illuminated Recipes: Cravings, Customs, & Comforts")を含む。3)[インタビュー]招聘講師 Viet Le とのインタビューをまとめ、アジア系アメリカ文学研究会『ジャーナル』に掲載した。4)[出版準備] i) 単著『『ミス・サイゴン』の世界—戦禍のベトナムをくぐり抜けて』(小鳥遊書房 2020 年 4 月出版予定)の入校・校正を完了した; ii)『「リトルサイゴン」—ベトナム系アメリカ文化の現在』(彩流社 2020 年 9 月出版予定)執筆を終えた。5)[招待講演] i) [シンポジウム] 日本英文学会関東支部第 17 回大会シンポジウム「ナラティブとエスニシティのポリティクス—信用のおけない語りを中心に」において、ヴェトナム系アメリカ人作家 Viet Thanh Nguyen 著 *The Sympathizer* の語りの構造について発表を行った（2019 年 6 月 15 日於・東洋大学白山キャンパス）。本研究内容は、『「リトルサイゴン」』の一部となる。ii) [研究発表] 日本アメリカ文学会第 58 回全国大会において、ヴェトナム系フランス人作家 Clement Baloup が描くグラフィックノベルに関し、 招待講演「「リトルサイゴン」を巡る国境横断的ナラティヴ—ポスト 1.5 世代フランス系作家が描くヴェトナム系アメリカ」を行った（2019 年 10 月 6 日 於・東北学院大学）。本研究内容は、『「リトルサイゴン」』の一部となる。

（3）<02 年度> コロナ禍において、単著『『ミス・サイゴン』の世界—戦禍のベトナムをくぐり抜けて』(小鳥遊書房 2020 年 4 月)、単著『「リトルサイゴン」—ベトナム系アメリカ文化の現在』(彩流社 2020 年 9 月)を刊行した。アジア系アメリカ文学会第 142 回 AALA 例会(2021 年 3 月 27 日オンライン実施)において、研究発表「「難民母娘の自伝的語り—Lan Cao and Harlan Margaret Van Cao, *Family in Six Tones* を読む」を行った。詳細は以下の通り。1)『『ミス・サイゴン』の世界』: 1989 年イギリスで制作されたミュージカル『ミス・サイゴン』を多角的に分析した概要書である。一般読者を意識しつつも、これまで本研究で積み上げてきた研究成果を盛り込みながら、ミュージカルをはじめとする大衆文化だけではなく、ヴェトナム戦争の歴史やヴェトナム文化など様々なトピックを織り交ぜて、『ミス・サイゴン』が作られた文化・歴史・社会的背景を読み解いた。2)『「リトルサイゴン」』: 過去 10 年間に蓄積したヴェトナム系難民文化研究を基礎に、関連する芸術作品を取り上げ、文化・歴史的文脈から分析を行った研究書である。当該分野における包括的研究として本邦初の単行書であり、アメリカにおいても同分野の研究書は数少ない。本書では、小説、映像、グラフィックノベルという 3 つのジャンルを横断的に論じることで、ヴェトナム系難民文化と難民社会リトルサイゴンの関係を中心に論じた。3)「難民母娘の自伝的語り」: ヴェトナム系難民作家 Lan Cao が娘 Harlan Margaret Van Cao とともに著した自伝を通じて、ヴェトナム系難民母娘が抱える文化・社会的葛藤を分析し、アジア系アメリカ文学会にて口頭発表した。

（4）<03 年度> 引き続きコロナ禍による行動制限があるなか、文献研究を継続し、以下の研究成果を得た。1) 2020 年 4 月に刊行した単著『『ミス・サイゴン』の世界—戦禍のベトナムをくぐり抜けて』改訂版出版に向けて増補部分の執筆にあたった。1989 年イギリスで制作されたミュージカル『ミス・サイゴン』を多角的に分析した本書だが、2022 年 7 月より同ミュージカルが日本で再上演されることもあり、1991 年のアメリカ・トニー賞において本ミュージカルが受けた評価を再検証する章を新たに加えた。改訂版の出版は 2022 年夏を予定。2) 2022 年度刊行予定の『アメリカ文学と大統領』(南雲堂)への掲載論文「ゴー・エレクトリック・ボブ・ディラン—ケネディ暗殺と対抗文化」を執筆した。ヴェトナム戦争がアメリカ大衆文化に与えた影響について論じる本稿では、アメリカ第 35 代大統領ジョン・F・ケネディー政権の東南アジア政策と 2016 年ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの音楽作品の関係性に焦点をあて論じた。3) ヴェトナム系難民作家 Lan Cao とその娘 Harlan Margaret Van Cao が 2020 年夏に米ペンギン社より出版した共作による自伝書 *Family in Six Tones: A Refugee Mother, an American Daughter* の翻訳・出版を目指し、その翻訳権を取得すべく米出版社との交渉を開始した。翻訳作業についても順調に進んだ。

（5）<04 年度> コロナ禍の影響から 2 年の超過期間を経て、フィールドワークや海外講師を招いての公開講演等、研究計画の実施を一部断念しつつも、本研究を終了することになった。以下、04 年度に行った研究の概要である。1) 『アメリカ文学と大統領』への掲載論文「ゴー・エレクトリック・ボブ・ディラン—ケネディ暗殺と対抗文化」は、2023 年夏に刊行が延期された。アメリカにおける各大統領期の特徴等を文化・社会的に包括的に論じる本書のなかで、本研究者は第 35 代大統領ジョン・F・ケネディー政権における東南アジア政策を背景に、2016 年ノーベル文学賞受賞者ボブ・ディランの音楽活動が、ケネディ暗殺等に色濃く影響されている点を取り上げ論じた。2) 2020 年夏に米ヴァイキング社より出版されたヴェトナム系難民作家 Lan Cao とその娘 Harlan Margaret Van Cao による自伝書 *Family in Six Tones: A Refugee Mother, an American Daughter* の翻訳権を、東京・小鳥遊書房を通じて取得した。翻訳作業については、2022 年夏までに完了し、校正作業を経て同年 12 月の出版となった。出版にあたっては、Lan Cao 親子の難民としての過去を論じる「訳者あとがき」を付した。本書出版にあたっては、著者 Lan Cao と継続的に意見・情報交換を行った。

（6）<まとめ> コロナ禍による行動制限という未曾有の事態の影響を受けながらの実施となった本研究プロジェクトだったが、研究予定期間を 3 年から 5 年に延長することで終了した。研究

年度 3 年目に実施を予定していた現地調査や招聘講師を招いての国際会議の開催は、最終的に見送ることになったが、単著 2 冊の刊行、翻訳書の出版等多くの成果を得た研究になった。とりわけ重要なのは、これまで日本ではほぼ理解されてこなかった南ヴェトナム共和国からの脱越者が旧祖国に抱く郷愁の念や、彼らが統一ヴェトナム政府に対して感じる違和感等について、詳細に論じることができた点である。とくに単著『「リトルサイゴン」』では、作品の分析にあたり、各作品の作者・制作者との対話を行うことで、多角的かつ包括的にヴェトナム系難民が作り出す文化の実態を解明できた。本研究が対象にしたヴェトナム系難民文化・芸術には、難民の複雑な感情が重層的に示されている。また、ヴェトナム社会主義共和国の国際社会復帰を契機に、太平洋を横断的に行き交う人と文化の流れが生じたことで、現代的な複合文化の形成が可能になった。本研究では、難民の時代といわれる 21 世紀において、ヴェトナム系難民文化の形成と展開が、今後世界各地で起きうる様々な難民文化形成の先行指標になり得ることを示した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 ASO, Takashi, Viet Le	４．巻 25
２．論文標題 “The ‘Love Bang!’ Trilogy and the Return of Art and Empire: An Interview with Viet Le.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 AALA Journal	６．最初と最後の頁 104-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 麻生享志
２．発表標題 難民母娘の自伝的語り―Lan Cao and Harlan Margaret Van Cao, Family in Six Tonesを読む
３．学会等名 アジア系アメリカ文学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 麻生享志
２．発表標題 シンポジウム：ナラティブとエスニシティのポリティクス―信用のおけない語りを中心に
３．学会等名 日本英文学会関東支部（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 麻生享志
２．発表標題 「リトルサイゴン」を巡る国境横断的ナラティヴ―ポスト1.5世代フランス系作家が描くヴェトナム系アメリカ
３．学会等名 日本アメリカ文学会（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計4件

1．著者名 ラン・カオ、ハーラン・マーガレット・ヴァン・カオ（訳・麻生享志）	4．発行年 2022年
2．出版社 小鳥遊書房	5．総ページ数 333
3．書名 ランとハーラン　母は難民、娘はアメリカ生まれ	

1．著者名 麻生享志	4．発行年 2022年
2．出版社 小鳥遊書房	5．総ページ数 254
3．書名 『ミス・サイゴン』の世界―戦禍のベトナムをくぐり抜けて	

1．著者名 麻生享志	4．発行年 2020年
2．出版社 彩流社	5．総ページ数 260
3．書名 「リトルサイゴン」―ベトナム系アメリカ文化の現在	

1．著者名 麻生享志	4．発行年 2020年
2．出版社 小鳥遊書房	5．総ページ数 238
3．書名 『ミスサイゴンの世界』―戦禍のベトナムをくぐり抜けて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
アジア系アメリカ文学研究会	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関